

# 瀬戸川だより

～瀬戸川で生きる。そして生きつづけたい。～

2021年号(第21号)

発行元  
土佐町役場 企画推進課  
☎0887-82-2450  
○瀬戸コミュニティセンター  
☎0887-72-9114  
○南川会館  
☎0887-72-9611

## 南川の冬ぐらし

### かじ剥ぎ

寒さも和らぎ晴天にめぐまれたある日、南川風物詩のかじ蒸し剥ぎがはじまりました。

かじは和紙の原料になる桑科の植物の事で一般的には楮(こうぞ)と呼ばれてます。楮の収穫地区により、呼び名があるようで土佐町内では「かじ」で通用するようです。ここではかじを蒸し、皮を剥ぎ、剥いだ皮を干して束にして出荷するまでの工程をしています。

南川地区では昭和から平成に時代が変わる頃までが一番盛んで地区内の各集落ごとに「かじ剥ぎゆうかよ」とか「かじやりうで」と言葉が飛び交いこの時季の挨拶代わりでした。

今回は今年の台風や猿害などの影響で数量が若干少なくなり、わずか5日間で終了いたしました。

ここでは、かじ剥ぎ作業での一コマを紹介します。



作業中の写真



和紙の原料となる「かじ」

### 凍結



地区の給水タンク

今年に入り寒波が訪れました。道路に雪を残し、川は凍りつき、滴る水もつららに姿を変え、私たちの生活に無くてはならない水源までも凍結しました。生活用水の凍結は、地区の助け合いと寒さのゆるぎで無事に復旧することができました。写真の給水タンクは、濁水と寒波での凍結により水が来なくなり水位が下がったものです（普段は満水状態です）。



▲凍った瀬戸川



▲つららになった姿

### ～移り変わっていく百万遍味噌～

前回の瀬戸川だよりでも紹介させていただきましたが、味噌づくりのメンバーの高齢化により、店頭での販売は中止し、今後は南川・味噌加工所での直販と受注仕込みのみの販売となります。

つきましては、この3月末で今ある在庫を売り切りますので、現在各店舗の店頭にある分をもちまして終了となります。

また、直販分については、昨年仕込みをしましたが、熟成の関係上はやくて令和4年夏以降の販売を予定しています。

今まで百万遍味噌を支えてくださったファンの皆様、ありがとうございました。

(南川味噌組合一同)



# 瀬戸川溪谷の春！

瀬戸川溪谷の春の訪れとともに心もウキウキしてきますね。インターネットなどで溪谷の魅力が発信されるにつれて多くの方が訪れる様になりました。秋の紅葉も素晴らしくいいものですが、春も見どころ満載です！

鮮やかなピンク色につい見とれてしまうアケボノツツジ（3月中旬～4月中旬）や稲叢山・稲村ダム周辺に咲く遅咲きの桜（4月中旬～5月上旬）などを見ることができます。

## 【ルート】

瀬戸川溪谷へは国道439号線から大川村経由（県道17号線）でお越しください。

土佐町石原地区からの県道6号線のルートは道幅が狭く一部ガードレールがない箇所もありますので、大川村経由をご利用ください。

## 【注意】

期間中は瀬戸川溪谷周辺の混雑が予想されます。道路が狭くすれ違いも大変ですので、譲り合いの気持ちでお願いします。



溪谷のアケボノツツジ▶

# 【瀬戸川ロマン活動報告】 ～瀬戸川溪谷の絵馬～

10月～11月に、瀬戸川ロマンの活動で瀬戸川溪谷展望台と川奈路展望台（南川）、2か所に絵馬を置いて、訪れた方々に溪谷の魅力や願い事を書いてもらう取り組みを行いました。

書かれた絵馬は「道の駅土佐さめうら」で展示してあります。ぜひ見に来てください。ご協力頂いた皆様有難うございました。

（瀬戸川ロマン事務局）

色々な感想や励ましのお言葉を頂きました。その一部を照会します。

- ・ぶらぶら橋がたのしかったです、紅葉が綺麗でした、また来ます
- ・瀬戸もみじコロナ横目に赤に染よ（俳句）
- ・素晴らしい景色でした遊歩道の整備ありがとうございます
- ・楽しい思い出をありがとう美しい紅葉、美しい水、心の栄養をいただきました



◀道の駅に展示している絵馬

◇令和3年3月現在の人口など◇

地区	人口等
南川	人口 27人(入院中の方を含む)
	世帯数 14世帯
下瀬戸	人口 10人(入院中の方を含む)
	世帯数 7世帯
黒丸	人口 27人(入院中の方を含む)
	世帯数 16世帯

※ここでは実際に瀬戸川地区に暮らしている方々の人数等を載せています。

## 「瀬戸川だより」に対する 感想・お問合せはこちらへ！！

【南川】〒781-3742土佐町南川1224-2  
南川会館 小林聖花宛て  
email: minagawa@utopia.ocn.ne.jp

【瀬戸】〒781-3337土佐町瀬戸658  
瀬戸コミュニティセンター 岡林孝通宛て  
email: okabayashi@herb.ocn.ne.jp



## 集落支援員のつぶやき

～負けるな～

今から約100年前の1918年（大正7年）3年間わたってスペイン風邪が流行。世界中で猛威を振るい、日本での死者数38万8千人を数え、高知県での死者数は約1400人とかなり、集団感染によるパンデミックで、医療崩壊も発生して都市機能も麻痺状態になったそうです。

感染予防の対策として、マスクの着用、うがい、集会の禁止、密を避けるなどを実施し、終息に向かっていたとのことですが、また当時は、電車やバス・公共施設などでは、マスクの着用をしない人には、乗車や入場の拒否を強制力をもって実施されたようです。

話に聞いたことのあるスペイン風邪の猛威を、新型コロナウイルスの発生によって経験しました。そして、今の経済や人の心までもが病んでしまう状況を、現在も私たちが経験するとは想像もできなかつたと思います。

ふるさとを離れた方も、お盆、お正月も帰省を控え、子や孫の帰りを待った、おじいさん、おばあちゃん、今を乗り切れば、また会えるようになれます。

とかく、人は困難を乗り越えたくとき強くなります。また、すぐ忘れてしまします。こういっこと世界史にのこる時代に生きましょう。

瀬戸集落支援員 岡林孝通